

## 令和4年度 第1回松浦中央病院地域協議会

松浦中央病院地域協議会については、新型コロナウイルス感染予防対策の観点から、通常開催が難しいと判断し書面会議での開催とした。

○発送文書 令和4年10月14日（金）

○文書送付先 外部委員9名

- ・長崎県県北振興局保健部医療担当部署代表者
- ・松浦市医療（介護）担当部署代表者
- ・松浦市医師会代表者
- ・関係医療機関代表者
- ・利用者等

○院内委員 松浦中央病院 院長 萩原 淳  
松浦中央病院 事務長 野村 晃一  
松浦中央病院 看護部長 川原 京子

○送付資料 (1) 病院の概況  
(2) 診療活動状況、患者統計、健診実施件数、経営状況等  
(3) 救急患者搬送状況  
(4) 透析患者数推移  
(5) 2021年度患者満足度調査

○外部委員の方からのご意見・ご要望は次のとおり。

今後の病院運営に反映させていただきます。

令和4年度 第1回JCHO松浦中央病院地域協議会  
委員からのご意見・ご要望、及び病院の回答・対応状況

病院概要について（委員からのご意見・ご要望）

・二次救急に対する唯一の市内医療機関として大きな役割を果たしている。限られたスタッフで健診、訪問看護、透析もカバーしており、地域への貢献度は今後も増していくものと期待する。（行政）

・松浦市の地域医療に多大なる貢献をいただきありがとうございます。近隣地域からの救急受入要請も増加する中、病床100床への段階的増床は不可欠です。松浦市としても国・長崎県への特例病床の承認に向けて努力して参ります。（行政）

・コロナ病床ができ、コロナ禍での市民の不安や負担の軽減に繋がっています。（行政）

・夜間透析の導入により、市民のライフスタイルに合った治療の選択ができることが、患者の社会参加に大きく寄与するもので、とても有難いです。（行政）

・浦崎時代に培われた地域医療を移転先松浦市にて開院時から遺憾なく発揮され、培われてきたノウハウは市民生活へ滞ることなく発揮・定着していることを医療の実際を知る市民として実感しております。とりわけ救急医療における貢献は市民生活に安寧をもたらしております。

これからの松浦市の医療現場に従事する医療職の高齢化は一層進行することが懸念されますので、ますます貴院の存在が重要になると思います。

一方、この概要に取り上げられてない課題について苦言を呈します。それは北松浦半島における地域包括ケアシステム構築の取り組みに言及されていないのではないかと懸念します。健康づくり事業の入り口にある検・健診事業については、医業収入の項目にとりあげられた事業高からは相当数の業績を上げられておられることは推測できます。そのデータを生かして松浦市民の健康づくり事業にどう貢献したのか。言及がなされておられません。

また、生活習慣病が死亡原因の7割以上を占める超高齢社会における医療は、病院完結型医療のみならず地域完結型医療に力点を置くことが望まれます。その意味で、地域に出かけていく医療はどうされておられますか。わたくしは過去に独立行政法人地域医療推進機構の評価委員を仰せつかっておりましたが、貴院の浦崎病院時代の業績報告には「地域協議会を開催して病院事業への地域住民の意見を吸収し運営に反映している」姿、「訪問看護事業実績を掲げ在宅ケアの柱として取り組んでいる」姿が報告されていることを記憶しております。

医業収益に訪問看護収益が掲載されておるだけでの業績評価では「行間を読む」こともできません。これからの北松浦半島における地域包括ケアシステム構築の拠点として成長するためにも整理されることを期待します。（関係医療機関）

### 病院経営状況について（委員からのご意見・ご要望）

・新型コロナの影響で、開院から現在までの経営状況を判断するのが困難であるが、委託費の内容見直し、経費節減には引き続き努めてください。（行政）

・黒字化へ向けての経営改善計画が必要ではないかと思えます。病床の増床は必要不可欠ですが、何をすることで収益増につながるのか、いつ何をすることが解れば、松浦市として協力できる事への早期の取組みができるのではないかと思えます。（行政）

・透析患者を増やすことについて、市民のサービスの向上に繋がります。送迎バスの運用の拡充はできないでしょうか。（行政）

・令和2年度と令和3年度を比較し意見を述べることは無理があるので控えます。令和3年度1年間だけを見て申しますが、医業収支比率は94.9%、経常収支比率は91.2%と1年目としては善戦している姿が伺えます。令和4年度を含めこれから先の数年は新型コロナウイルス感染症の予測しがたい影響のため、経営は見通しできないと、どこの医療機関も頭を抱えています。非日常事態が病院事業に大きく影響していることは想像に難くありません。

病院概要にも病院経営項目にも1か所も「新型コロナウイルス感染症に対しどう取り組んだのか」が語られてないのはどうしてでしょうか。（関係医療機関）

### 病院経営状況について（病院からの回答・対応状況）

・令和4年度は10月までコロナ専用病床を確保するなど、救急医療との両立に苦慮したが、当院の保有する機能を維持することで、松浦地区の地域医療に貢献できた。しかし、年次決算においては、赤字という経営状況が続いている。

令和5年度の当院の第一の目標は経常収支の黒字化である。

そのためには、常勤医の獲得は最重要課題であり、特に内科、整形外科の常勤医師の獲得は最優先としている。当院における高齢医師への依存度は大きく、今後の安定的な医師確保には不安が残る。

医師確保には佐賀大学の協力が不可欠であると考えている。佐賀大学の教授等を継続的に訪問し、当院の現状の理解を求めるなど、更なる協力体制の構築に努めていく。

・透析部門においては、患者数が伸び悩んでいるため、月1回の佐賀大学からの腎臓内科医師派遣を8月からは月2回とし、外来からの新規導入患者を2人増加させ目標患者数35人（現在33人）を目指す。

透析患者の送迎は継続するとともに、運用拡充についても検討をすすめる。

### 患者満足度調査について（委員からのご意見・ご要望）

- ・ JCHO 全病院統一項目での調査であるが、松浦中央病院と立地条件や規模に近い病院との比較も今後面白いのではないか。（行政）
- ・ 患者の声を取り入れ、患者を増やしていくためには必要です。患者の声に対して、できることから取り組まれている事が理解できます。松浦市としても市民の声があればお伝えいたします。（行政）
- ・ 多くの診療科の受診環境が整備され、市民の安心した生活に繋がっていると思います。救急患者の受け入れにより、市外搬送数が減ったことで、患者、家族の負担の軽減や早期対応により、市民の安心できる環境ができました。（行政）
- ・ 訪問看護の対応が早く、バックベッド、地域包括ケア病棟があることで、市民の在宅医療継続に安心感を与えています。（行政）
- ・ 総じて患者は貴院の病院運営に満足しているものと結果と思います。（関係医療機関）
- ・ 過去の地域協議会での意見として、待ち時間の長さや、受付の対応についてご意見しましたが、現在はそのような問題点も改善され、問題視すべき点は特にないと思います。（利用者）

その他のご意見・ご要望（委員からのご意見・ご要望）

- ・収益増となる取組みを進めつつも、医療スタッフの充実、診療科目の拡充等も併せてお願いいたします。地元医療施設との各種検査の連携強化を進めるべきではないか。（行政）
- ・脳疾患系、心臓系、がんの初期治療、経過観察に対応してもらいたい。リハビリテーションの受け入れ増加は収益増に結び付かないか。（行政）
- ・時間外の救急搬送が増加しているため、適正受診等の啓発が必要と思われます。（行政）
- ・院内で看取る患者、家族に対する配慮（コロナ禍で可能な限り、接点をつくるための工夫、リモート含む）をお願いします。（行政）
- ・退院カンファレンスを毎日実施していただき、患者、家族、関係部署が一同集うことで、ご本人の思いを尊重しながら関係者が意見交換でき、退院後の具体的な生活支援を行うことができています。慢性疾患患者の自宅療養期間が長くなっているように感じます。（松浦市医療介護連携コーディネーター）（行政）
- ・地域連携室との連携で退院後の支援がスムーズに行えています。（行政）
- ・市外への救急搬送が激減しているのは、市民にとってありがたいこと。各診療科で新規に可能となった検査（例えば冠動脈 CT 等）があれば、いつ（曜日）どこに予約するのか。医療機関へ通知していただきたい。（医師会）
- ・床数の増床目標が語られておりますが、これからの松浦市の民間医療機関の行く末を思うと、是非100床へ増床を図るべきと思います。民間医療機関の閉院・減床ないし無床化が図られてきました。少なくとも160床は10数年間に消滅しております。  
西暦2025年における予測人口から割り出しても貴院が100床有する根拠は明白です。増床の根拠を整理し、松浦市の行政当局を動かし地域医療構想会議にて主張すべきと思います。それと並行し常勤医師の確保も必要です。非常勤医師に依存している現在のままでは、常勤医師の負担は軽減しないばかりか、働き方改革のあおりを受けかねません。（関係医療機関）
- ・患者送迎バスがあり、とても助かっています。花壇に草が生えているのは、ちょっと気になります。（利用者）
- ・院長が時々院内を巡回しておられ、目配り、気配りをさせていただいており良い気持ちです。そういうことは高齢者としては嬉しい。という話を良く耳にしています。（利用者）

その他のご意見・ご要望（病院からの回答・対応状況）

・術後成績を向上させ、地域における整形外科領域をより一層充実させることが、当院の使命である。

セラピスト3名の増員により、佐世保総合病院・長崎労災病院からの術後患者の受け入れを行う「サブアキュート」「ポストアキュート」として、後方支援による連携強化を行う。

また、地域包括ケア病床リハ対象患者へのリハ提供も維持できることになり、病院機能がより充実する

・近隣医療機関へ診療内容と手術の紹介活動を行い、理解を得ることで、手術実施件数の増加を目指す。

これに併せて、医療機関へのMRI、CTの検査拡充の取り組みを行い、共同利用医療機関の契約の推進を行う。

・確実な経営黒字化を推進するためには、今年度中に80床までの増床の目途をつけることである。特例での増床とするのか、佐世保・県北医療圏での返還病床を資源として増床をするのか、長崎県の方針が固まっていないが、これについての協議を早急に進めたい。